

英語指導助手のアリアンさんは広野在住で、小中学生の英語指導や公民館での英語教室を行っています。



In English there is a saying "March comes in like a lion, and goes out like a lamb."

英語では、「3月はライオンのようにやってきて、子羊のように去っていく」ということわざがあります。

It refers to how the worst winter weather usually ends during March.

それは、冬季の中でも最悪の天候が、3月のうちにどのように過ぎていくのかということに由来しています。

So at the beginning of the month the weather is fierce and violent — like a lion. By the end it is mild and gentle, like a lamb.

3月上旬の天候は、荒々しくどう猛で激しく乱暴です。まるでライオンのように。しかし3月下旬までには、まるで子羊のように穏やかで温和な天候となるものです。

But this doesn't always prove to be true in Boston, where we've gotten huge snowstorms in the middle of April.

しかし、このことは必ずしもボストンで当てはまるとは言えません。ボストンでは4月中旬にひどい吹雪を受けたことがあるからです。



広 野産農作物を給食に

学校給食に使用している野菜を作っている町内の生産者と広野小学校児童が給食を食べながら交流する給食交流試食会が1月26日、小学校で行われました。交流会では広野町ニッ沼総合公園直売所利用組合（新妻良平組合長）から11人が参加しました。

この日の献立は、あひるの農法によるあひる米、牛乳、いなな汁、鮭の福ちゃん焼きなどが並びました。赤津由美子学校栄養教諭から献立について説明がありました。参加した組合員からは、「子どもたちが野菜に興味をもって食べていることに感動しました」や「和食の献立で、給食を残す子どもがなく、みんな競っておかわりしているのに驚きました。」など感想が聞かれました。



▲地元の食材を使ったおいしい給食が並びました

広 野産農作物が大好評

第16回伊東温泉めちやくちや市が1月23日と24日の2日間、静岡県伊東市で開かれ、広野町から認定農業者やニッ沼総合公園直売所利用組合員が参加し、広野産農作物をPRしました。会場では、広野産の米、ジャガイモ、ニンジン、漬物、塩などが販売されました。また、広野産米をPRしたポケットティッシュが配られ、来場者の注目を集めていました。



▲広野町のブースもたくさんのお客さんでにぎわいました

豆 乳はどんな味？

広野小学校5年生による広野産大豆を使用した豆腐作りが2月18日、総合学習の一環として行われました。渡辺産業グループリーダーの指導で大豆をミキサーですりつぶし、豆乳とおからに分ける作業を体験。豆乳を飲んだ児童は「豆乳はあまい」と感想を述べていました。その後は、豆腐作りに挑戦。火加減に戸惑いながらも楽しそうに取り組みました。出来上がった豆腐は給食の時間においしくいただきました。

また、この日は、健康管理士で食育インストラクターの渡辺千洋さん（大字折木南沢）から食育講話を聞いて地産地消の大切さを学びました。



▲実際に豆腐作りに挑戦した児童

親 子で楽しくボールと親しむ

広野幼稚園保育参観が2月9日、園庭で行われました。JFAアカデミー福島スタッフのご協力をいただき親子サッカー教室が行われ、たくさんの親子が参加しました。サッカー教室では、コーチときちんとあいさつを交わし、鬼ごっこをしたり、手でボールをキャッチするなどからだ全体を使って、ボールと楽しく親しみました。

参加した園児はボールを使う楽しさを感じているようでした。



▲保育参観の様子

広野文芸欄

広野町如月句会

行々子先生 選

季題 当季雑詠

吉方向きほほばる笑顔恵方巻  
霽受け見上ぐる太き水柱かな  
炬話の盛り上がる時燠爆ぜる

暁 月

鳥小屋を溢るる子等の燥ぐ声  
蠟梅の甘き香りや母徳ぶ  
川端の風にふくらむ路の臺

弥 生

春を待つ心で辿る山路かな  
冬ぬくし老人会の歌祭  
犬散歩つひ見惚れるいぬふぐり

遠藤 智

電車過ぐる音雪原の無人駅  
断崖を駆けのぼり行く冬怒濤  
日本海岩に動かぬ冬鷗

西山 子

粉雪の吹っかけフードの白くなり  
どんど焼く炎と音にしばたたく  
木の下の吹っかけ雪の消え残る

悟 峯

ふるふきの大根とろり舌に置く  
初御空もろ手を上げて深呼吸  
読み初めの奥の細道結びの章

宮下 純子

松の内客間に座る生家かな  
ゲームやめかるた取りする子供達  
寒怒濤鷗の舟に乗りしまま

吉田 幸子

炬燵抜け三歳の児のくるりんぱ  
元気良く足並揃ふ出初め式  
愛犬のまあるくなりて日向ぼこ

木幡 綾子

弓を引く男の顔や息白し  
母譲り飾りて祝ふ初雛  
漆黒の頭の揃ふ寒の鯉

塩 史子

寒鯉の時折ぐらり動きけり  
集落の力合わせて野焼かな  
万葉の歌碑を濡らして春時雨

遠藤健太郎